

# 行政視察等報告書

令和4年10月17日

知立市議会議長 様

報告者	中島 清志 (篤心会)
日時	令和4年10月13日(木)・14日(金)
視察(研修)場所	出島メッセ長崎
目的	第84回全国都市問題会議
(概要)	<p>テーマ 「個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～」 《10月13日(木)》</p> <p>■基調講演:「民間主導の地域創生の重要性 ～スタジアムシティプロジェクト～」 株式会社ジャパネット HD 代表取締役社長兼 CEO 高田旭人氏</p> <p>(1) ジャパネットと地域創生 「見つける」「磨く」「伝える」</p> <p>(2) 行政と民間の役割の違い 「公平性」⇔《連携》⇔民間企業の役割「幸福の最大化」</p> <p>(3) 長崎スタジアムシティプロジェクトへの想いと目指すところ 働き方改革「健康経営」「断捨離」「整理整頓」:義務を果たして権利を手に入れる</p> <p>(4) 長崎スタジアムシティプロジェクトで実行するアイデア</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・荷物の持ち込みを禁止にする:入口荷物チェックの簡素化</li><li>・試合後の出庫時間に応じた駐車場料金体系:延長割引料金体系(従来の逆発想)</li><li>・スタジアムアリーナを活用した快適なオフィスの実現</li><li>・年間シート購入者へ高速 Wi-fi の提供</li><li>・商業施設の使用ターゲットの昼夜変えることで稼働率の向上を図る</li><li>・スタジアムの非稼働日の演出の工夫</li><li>・スタジアム VIP ルームの有効活用</li><li>・美味しいビールの提供による車両交通量の減少</li><li>・試合前後でもスタジアムで楽しめる特集番組作り</li><li>・語学とスポーツの両面を学べるスクールの開校</li><li>・長崎大学大学院の誘致</li></ul> <p>(5) 行政に期待すること</p> <p>(6) 全国を盛り上げる地域創生の展開:</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・クルージング</li><li>・食品の頒布会「地域応援プロジェクト」</li><li>・BS放送局の立ち上げ</li></ul>



・航空会社との資本業務提携

(7) 民間と行政はもっと連携すべき

- ・民間の若手経営者は、地域に貢献したいと思っている
- ・民間の強みと弱み、公共の強みと弱みをお互いに理解して手を組む

■主報告：「長崎市の魅力あるまちづくり～100年にいちどの長崎～」 長崎市 田上富久市長

(1) 長崎市の概要

長崎市は、長崎県の南西部に位置する市。長崎県の県庁所在地及び最大の都市でもあり、中核市に指定されている。核兵器廃絶と世界恒久平和を訴える国際文化都市の役割を果たしている。

(2) 長崎市の交流の歴史

「鎖国」体制であった江戸時代には、国内唯一の江戸幕府公認の国際貿易港（対オランダ、対中国）・出島を持つ港町であった。このため、出島跡を初めとして、異国情緒に満ちた港町として有名である。歴史的経緯からカトリック教徒の数が比較的多いことでも知られており、特にカトリック教会は長崎県単独で一つの大司教区を形成している。

(3) 時代の変革期

昭和の合併、平成の合併で面積は広がったが、人口減少（少子高齢化）が進み、行政効率が悪くなる。昭和の観光都市→21世紀の交流都市

- ・ネットワーク型コンパクトシティへ
- ・コンパクト「長崎サイズ」
- ・MICE 施設「出島メッセ」
- ・陸の玄関：新幹線駅「夜景に貢献」
- ・海の玄関：歴史と詩情のまち長崎
- ・観光は誰のため？観光関連業者のため？市民のため？来訪者のため？「3WIN」
- ・観光まちづくりのパートナー：DMO⇔長崎市

(4) わがまちの価値とは？：まちのOSを書き換える→行政（アプリ：市民、企業、大学）

①価値を見つける：発見

- ・まちの「魅力」再発見（例：恐竜、軍艦島）
- ・素通りのまち→ストーリーのまち「立ち止まって」再発見

②価値に気づく：認知

- ・「できない」と思うか、「できないと思うからやることに価値がある」と思うか。
- ・まち歩き「長崎さるく」→まちの歴史を振り返る「価値に気付く」

③価値をみがく：付加、向上

- ・景観専門監制度の導入（鍋冠山展望台、出島表門橋、遠藤周作文学館）

④価値を生み出す：創造

- ・高度教育の環境がまちにある→財産、未来への投資
  - ・坂×農園：「老朽化家屋」除却後の土地の利用
- ⇒「地域課題」が「資源」となるという発想の転換

■一般報告1：「何度も訪れたいくなる場所 都市の新たな魅力と関係人口」

島根県立大学地域政策学部准教授 田中輝美氏

○「旅と移住の間」地方インターン

○都市と地方の双方の課題：「つながり不足」と「担い手不足」

○交流・観光（短期的にくる人）、関係人口（継続的に関わる人）、移住・定住（長期的に住む人）

○関係人口→観光以上、定住未満：限られた担い手をシェアする考え方

■一般報告2：「ビジョンを活かしたまちづくり～選ばれる山形市を目指して～」

山形市 佐藤孝弘市長

- (1) 山形市2大ビジョン
  - ・「健康医療先進都市」、「文化創造都市」
- (2) 「歩くこと」をベースにした健康で暮らしやすいまちづくり
- (3) 「公共交通の充実」による徒歩の補完
  - ・令和3年3月「山形市地域公共交通計画」を策定
- (4) 文化芸術活動を通じて持続的発展を目指す

■一般報告3：「交流の産業化」を支える景観まちづくり～長崎市景観専門監の取り組み～

一般社団法人地域力総合デザインセンター代表理事 高尾忠志氏

- (1) 長崎市のまちづくり戦略
  - ・「交流の産業化」
- (2) 長崎市景観専門監の導入：2013年より
  - ・長崎市が行う公共事業のデザインの指導と管理
  - ・長崎市職員の育成
- (3) 時代が求める価値とは
  - ・選ばれる地域になるための求められる価値：マズローの欲求段階
- (4) 価値創造に向けたデザインマネジメント
  - ・オリジナリティ（地域の個性）の根源は、オリジン（地域の風土）である。
  - ・まちづくりは、地域のオリジンを再認識し、オリジナリティに育てるプロセス
- (5) 人材こそ未来
  - ・「思いを紡ぐ」：過去＋現在＝未来

≪10月14日（金）≫

■パネルディスカッション

テーマ：個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～

コーディネーター：東京都立大学法学部 大杉 寛教授

パネリスト：

○人が人を磨き、輝く人が人を呼ぶ～「雲仙人プロジェクト」の試み～

ゆとり研究所 野口 智子所長

- ・雲仙人ネットワークプロジェクト
- ・ものづくり、ことおこし
- ・良いこと（人）ばかりではない
- ・悪いこと（人）の積み重ねは危険

○ワーケーションの意味の拡張と変異

山梨大学生命環境学部 田中 敦教授

- ・ワーケーション
- ・サテライトオフィス
- ・コアワーキングスペース
- ・「SUUHAA」

○人は人に会いに行く！～「まち歩き」で見つけた“まちのつくり方”～

NPO 法人長崎コンプラドール 桐野 耕一理事長

- ・まち歩き「長崎さるく」
- ・お金がかからなくて、人を呼ぶ方法
- ・市民が関わるまちづくり「市民が長崎自慢をする」

○人口減少先進地の挑戦～ファンと共に取り組むまちづくり～

- ・飛騨市ファンクラブ
- ・ファンの集い：アンケート（満足度が大事）
- ・飛騨市ファンクラブサポートセンター：関係人口
- ・飛騨市関係案内所「ヒダスケ！」

## ○清酒発祥の地・伊丹～酒と文化が薫るまち～

- ・日本遺産「清酒発祥の地」
- ・シビックプライド「わがまちを知り、誇りに思う」
- ・伊丹大使制度
- ・地域活動のデジタル化

## 【所感、知立市政への反映に向けた課題等】

今回の都市問題会議では「個性を活かして『選ばれる』まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～」というテーマのもと、各種報告等が行われました。何度も同じ都市を訪れ、地域とのより深い関わりを持つことは、来訪者にとっては、人間関係を新たに構築し体験を深めるなど、自由で創造的なライフスタイルの選択肢の1つになる。都市にとっては、地域外の人に繰り返し訪れてもらい密度の高い関わりを深めてもらうことで、地域の新たな魅力を形あるものとし、地域の活性化を促進し、持続可能な地域社会を構築していくことに結び付く。様々な文化の交流・集積によって魅力を増す潜在能力を都市は持っている。今回の都市問題会議では、それぞれの自治体が「また訪れたい、何度も訪れたい」魅力ある地域づくりを行ってきていることが分かった。

まず、知立市外の人に定期的・継続的に訪れてもらう仕組みづくりが必要であると感じました。それは、地域外の人を呼ぶ＝観光といったものではなく、地域外の人にとっても地域の人と同じように知立の地域での活動に参加してもらえるような仕組みづくりが必要であり、交流人口の増加こそが地域活性化のための入口であるため移住や定住を推し進めるのではなく、まずは、地域資源や地域課題に関わってもらうというものが今回の発表自治体からの共通したものでした。そして、地域特有の資源について、①発見し認知すること②磨くこと③価値を生み出す創造することが必要というものも各自治体からの共通した話題でありました。

知立市においては、知立神社・かきつばた・遍照院など多くの観光資源があるが、観光としてしまっただけでは、一時の交流であるため、そこに隠れているそれぞれの課題について再度見つける。また、歴史やこれまでの経緯についても振り返ってみることで見えてくることもあるのではないかと思います。まさに、そのまちに根付き、暮らす「土の人」とそのまちを訪れる「風の人」がそれぞれで感じるだけでなく、共にまちを感じ、交流することにより、暮らしている中では見つけにくいその自治体ならではの自然や文化、歴史などの新たな価値が見つかり、磨かれ、まちの価値が創られるのではないかと思います。地域内と地域外の人々が交流する中でまちに暮らす人にもまちを訪れる人にも魅力的なまちとなり、知立市が持続可能な地域社会・魅力的な地域社会の構築になるのではないかと感じました。

※報告書は視察（研修）場所ごとに作成してください。

報告書は視察（研修）終了後1週間以内に提出してください。